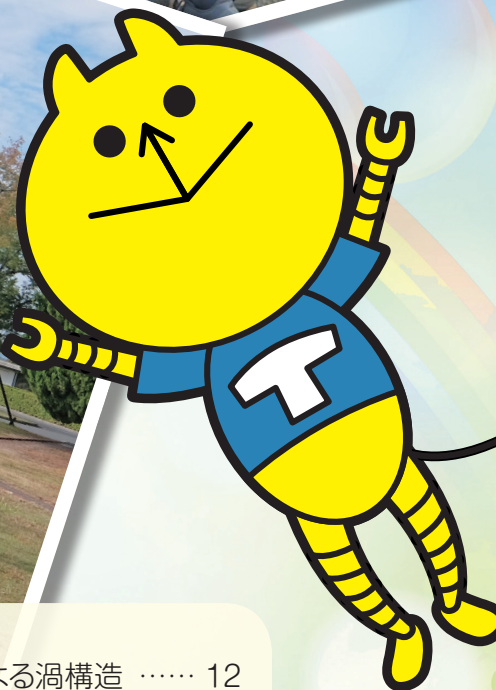


津山高専だより



CONTENTS

学生会の取り組みについて	2	クラゲ型ロボットによる渦構造	12
韓国語学留学	3	年間スポーツ大会の取組と成果	13
ベトナム海外工場見学	4	第61回 弥生祭	14
トビタテ!留学Japan新・日本代表プログラム	5	寮生活について	15
南米次世代交流	6	第61回 中国地区高等専門学校体育大会	16
ロボット技術研究部の2025	7	第60回 全国高等専門学校体育大会	17
内燃機関部 Hondaエコマイレッジチャレンジ2025	8	卒業生表彰者一覧・令和7年度 就職・進学状況	18
システム研究部	9	新任教員紹介	19
数学クラブがひらく新しい数学のかたち	10	退任の先生のご挨拶	21
将棋部 あと1歩	11	令和8年度行事予定	22

学生会の取り組みについて

総合理工学科 先進科学系 4年 森 本 藍 華

本校の学生会は、学生が主体となって学校行事の企画・運営を行い、学校生活をより楽しく、より温かいものにすることを目指して活動している組織です。メンバーひとりひとりが、季節に合わせたイベントや応援企画を考え、学生が自然と笑顔になれるような学校づくりに力を注いでいます。

学生会が取り組む活動の中心となるのが、七夕やハロウィン、定期試験前の応援企画といった、年間を通した行事の企画です。七夕では、短冊を書いてもらうコーナーを設け、校内が明るく華やかな空間づくりを行いました。色とりどりの短冊が笹を彩り、学生たちが互いの願いを見て楽しめる企画として、多くの反響を得ています。

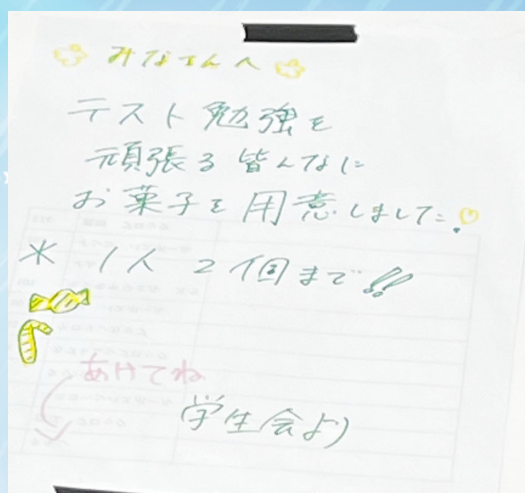
ハロウィンでは、学生会が中心となって「クイズラリー」を実施しました。校内の数力所にクイズポイントを設置し、学生が自由に回りながら問題に挑戦できる形式のイベントです。正解数に応じて小さな景品を用意するなど、参加した学生がワクワクしながら学校内を回れるよう工夫を凝らしました。装飾や準備にも力を入れ、季節感を楽しめる行事として校内を大きく盛り上げることができました。

また、定期試験前の「テスト応援企画」では、勉強を頑張る学生を励ますため、学生会からお菓子を提供する取り組みを行いました。メッセージカードを添えるなど、学生が少しでも前向きな気持ちになれるよう、細かな部分まで工夫しました。受け取った学生からは「元気が出た」「頑張ろうと思えた」という声が多く寄せられ、学生会にとっても大きな励みとなりました。

これらの企画は、目に見えるイベントだけではなく、その裏での話し合いや準備、広報、当日の運営など、多くの努力によって成り立っています。メンバーは互いの意見を尊重しながら役割分担を行い、一つの行事を成功させるために協力し合っています。そうした経験を通して、責任感やコミュニケーション力、企画する力が自然と身につく、学生会の活動はメンバー自身の成長の場にもなっています。

これからも学生会は、学生が安心して楽しく過ごす学校づくりを目指し、季節の行事や新しい企画に積極的に取り組んでいく予定です。学生の皆さんの参加や協力が、よりよい学校生活を生み出す大きな力となるので、今後とも

学生会の活動に温かいご理解とご支援をお願いしたいです。



図書館前と学生課前
2箇所設置してます!!

韓国語学留学に参加して

総合理工学科 電気電子システム系 2年 埜村 朱里

私は韓国の語学研修に参加して、自分から新しいことにチャレンジする行動力がつきました。私は今まで留学に行ってみようという気持ちは持っていませんでした。ですが、学校の帰国報告会に参加してから1年生のうちに何かに挑戦したいと考えるようになりました。

様々な留学からこの研修を選んだ理由は韓国の人はどうして英語を話せる人が多いのかなと思い、日本と韓国の英語教育にどのような違いがあるのか知りたかったからです。英語があまり得意ではないことや海外での寮生活への不安もありましたが、研修が始まると不安を忘れてしまうほど毎日とても楽しかったです。

研修先の英語村では、ネイティブスピーカーの先生方からグループワーク中心の授業を受けました。普段の授業も体育もすべて英語で学んでいくという初めての経験に驚きつつも楽しく勉強ができました。クラスの人と協力しながら授業が進んでいき、他高専の人たちとも仲良くなることができました。

留学中、拙い英語でもとにかく話してみることを実践してみると、難しいと思っていた英語を話すことのハードルが下がったように感じました。これからの学校生活でも今回の経験で知った自分の強みや楽しむ力を生かして、たくさんのことに挑戦していきたいです。

韓国留学を通しての成長

総合理工学科 電気電子システム系 2年 鳥家 心晴

今回の韓国留学を通して、私は語学を学ぶ楽しさと、挑戦することの大切さを実感することができました。すべての授業が英語で行われる環境の中で、初めは聞き取れない言葉に戸惑うこともありましたが、毎日英語に触れるうちに少しずつ理解できるようになり、自分の成長を感じられる瞬間が増えていきました。机の上の勉強だけでは得られない、生きた英語に触れられたことは私にとって素晴らしく、一生記憶に残る経験になりました。

また、他県の高専生との交流を通して、自分の殻を破るきっかけをもらいました。積極的に英語で話しかける彼らの姿に刺激を受け、私も「もっと話してみたい」と自然に思えるようになりました。初めは失敗を恐れて行動できませんでしたが、この留学を通して「挑戦すること」の大切さに気づくことができました。

この留学で得た気づきと前向きな気持ちを大切に、これからも英語の学習を続けていきます。そして次の留学では、恐れずに自分から話しかけられるようになりたいです。今回の留学は、私にとって新しい挑戦への第一歩になりました。また、この経験のおかげで、英語学習だけでなく、自分の中にある「好き」や「やってみたい」という気持ちにも素直に向き合い、それに真剣に挑戦してみようと思えるようになりました。

永進専門学校語学研修を通して学んだこと

総合理工学科 電気電子システム系 2年 小早川 陽菜

私は二週間にわたり、永進専門大学の英語村で実践的な英語学習に取り組みました。授業ではリスニングやスピーキングを中心に、ネイティブスピーカーの先生や他高専の学生と英語で交流しました。当初は自分の英語が正しく伝わるか不安で、発言をためらうこともありましたが、間違いをしても温かく耳を傾けてもらえる環境の中で、完璧さよりも「まず伝えようとする姿勢」の大切さに気づき、次第に自分から積極的に話しかけられるようになりました。

特に印象に残っているのが、自由なテーマによる英語でのプレゼンテーションです。私は自身の関心事であるゲームを題材に選び、作品の魅力や利用者同士の交流を促す仕組みについて発表しました。内容を整理し、論理的な構成を意識しながら準備を進める中で、自分の考えを英語で組み立て、相手に分かりやすく伝える力を養うことができました。本番では単に原稿を追うのではなく、聞き手の反応を見ながら話すことを心掛け、英語で主体的に発信する力の向上を実感しました。

また、空港や病院などの場面を想定した実践型授業では、状況に応じて適切な表現を選択する力を養いました。さらに、大韓民国での生活を通して言語だけでなく文化の違いを理解し、多様性を尊重する姿勢の大切さを学びました。今回の経験は、英語力の向上だけでなく、自ら考え行動する姿勢を培う貴重な機会となりました。今後も学びを深め、英語で自分の考えを的確に伝えられる力をさらに磨いていきたいと考えています。



韓国語学
留学





ベトナム海外工場見学

海外工場見学～ベトナム～

総合理工学科 1年 徳岡 颯

今回私は、夏季休暇期間に実施された海外工場見学に参加しました。参加した動機として、海外に行ってみたいという気持ちと、工業にかかわる仕事について学び、今後の進路選択や勉強のモチベーションにしたいという思いで参加しました。ベトナムについてのイメージがほとんどなく、更に初の海外渡航だったので終始新鮮な気持ちでした。工場見学では、製品の生産の過程を主に見学し、座談会にて海外で働く生活や心境についてご教示いただきました。地域の見学では、現地の方と交流し、ジェスチャーや表情で感情を伝える楽しさを感じることができました。海外交流としても、進路を考える材料としても、今後とても役立つ経験をする事ができました。

R7年度海外工場見学(ベトナム)についてのレポート

総合理工学科 1年 足立 龍星

今回私はベトナムで行われた工場見学に行ってきました。ここでは学んだことと海外研修に行くことの利点を説明します。

研修自体の内容はウチャマベトナムと両備ホールディングスの施設の見学でした。製品の製造工程や倉庫を見学し、現地の人々や日本人駐在員との交流活動を行いました。私は今回、海外で働くためには英語でのコミュニケーション能力がどのぐらい必要か学びました。その結果、私は英会話能力が不足していることがわかりました。私が感じた海外研修の主な利点は、日本語が通用しないところに自分自身の身を置くことで英会話能力と心を成長させられることです。

今回の研修では、私自身の心を大幅に成長させることができました。この記事を読んで興味が湧いた方は是非参加してみてもはいかがでしょうか。

研修で学んだこと

総合理工学科 1年 清水 春貴

私は、ベトナムにある内山工業さんの工場を見学させていただきました。海外研修に参加しようと思ったきっかけは、私は自動車に興味があって、自動車のシールを製造されている内山工業さんに興味を持ったからです。

私が印象に残ったことは、製造した製品や箱詰めしたものを何度も確認していたことです。システム管理によって、効率化が行われているのに、それを阻害することとされたのですが、買い取ってもらう企業さんに信頼されて、製品の品質を保証するには、効率化と品質の保証を同時に行わなければならない難しさがあると思いました。こういう考えさせられたことも含めて、印象に残りました。



トビタテ!留学Japan新・日本代表プログラム

生命の壁：老化を治療する倫理

第10期

総合理工学科 先進科学系 3年 福島 一 伸

今回、私は2025年8月17日から2025年9月20日までの約1ヶ月間、文部科学省が推進する「トビタテ!留学JAPAN」のプログラムを利用してアメリカ・ロサンゼルスに留学しました。この制度は、高校生・大学生を対象に日本の未来を担う若者が世界で挑戦し、グローバル人材として飛躍することを目的とした国家プロジェクトで、留学内容や留学先、期間（2週間～1年）を自分で自由に決められるのが特徴です。私は、マイ好奇心探求コースで「老化」をテーマに探究活動を行いました。このテーマを選んだ理由は、年をとるにつれ生活が不自由になり、生きていても楽しくないのではないかと疑問を持ったからです。生きている間を若々しく生活し、より多くの人が幸せになれる社会を実現するため、老化研究や再生医療の最先端に触れるべく、医療分野で世界をリードするアメリカを選びました。また、これらの目的を行うためには他のプログラムでは実現できず、アメリカというお金のかかる国へは多額の支援金なしでは難しいことから、トビタテ!留学JAPANへの参加を決めました。

アメリカでの生活は毎日が新しいことばかりで新鮮な気持ちでした。スケジュールとして平日の午前中に語学学校に通い、午後にアクティビティ活動や探究活動を行いました。土曜日、日曜日は終日アクティビティでいろいろなところに行きました。私は探究活動として、ロサンゼルス自然史博物館やカリフォルニアサイエンスセンターを訪問したり、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校と南カリフォルニア大学の図書館にて文献調査を行いました。その結果、進化の視点では老化は自然な現象であり治すべきではない一方、医療の視点では治療すべき課題であるという結論に至りました。この探究を通じて、進化と医療の間にある倫理的な課題と、その解決策を見出す重要性を強く認識しました。

語学学校には多くのアクティビティがあり、ロサンゼルスでしか経験することのできないことも行ってきました。例えばドジャース観戦やユニバーサルスタジオハリウッド、カリフォルニアディズニーランドなどです。日本とは違う、アメリカならではのものが多くあり、貴重な経験になりました。また、留学につき物であるトラブルにも遭遇しました。ハリウッド観光中に詐欺に遭い、警察署に2回行きましたが、取り合ってくれませんでした。ネットで検索しても同じ人が似たような手口で日本人をだましている記事が出てきて、事前に危機対策をしていたつもりでしたが、不十分であったことを自分の身をもって実感しました。これからは、危機管理は常に起こり得るものとして捉え、徹底していきたいと思いました。

様々なことがありましたが、今回の留学は、自分自身を大きく変え、成長させる最高の機会になったと確信しています。トビタテ!留学JAPANの最終的な目的は、留学経験を糧に、将来の日本を牽引していくことです。留学は決してゴールではなく、未来への「通過点」です。「自分のやりたいこと」が少しでもあるのなら、ぜひ一歩を踏み出し、世界で挑戦してみたいかがでしょうか。この経験を活かし、私はこれからも探求を続けていきます。





南米次世代交流

総合理工学科 先進科学系 4年 芦田 拓巳

今夏、私は南米次世代交流大使としてブラジルを訪問いたしました。片道30時間以上かけて日本の反対側へ向かった目的は、約1世紀前から現地へ移住し、ブラジル社会で生きる日系人の方々と交流し、理解を深めるためです。しかし、この5日間の滞在は、単なる異文化交流にとどまらず、予期せぬハプニングに見舞われた「試練の世界一周」となりました。

現地では、岡山県人移民115周年記念式典に出席し様々な方とお話したほか、ブラジル移民先没者慰霊碑への参拝、日本移民資料館の見学を行いました。さらに、モジダスクルージスでのホームステイやホームパーティ、学生からご年配の方まで幅広い世代が参加してくださった岡山県人会との交流会など、大変充実した時間を過ごしました。

それらの活動の中で、特に私の印象に残った出来事を2つご紹介します。

一つ目は、現地の方々の圧倒的な温かさです。モジダスクルージスでのホームパーティや交流会の場で、滞在中に誕生日を迎えた私を、皆様がまるで家族のように祝ってくださった優しさは一生忘れられません。また、慰霊碑や移民資料館を巡り先人たちの苦難の歴史に触れたことや、現地の大学生たちと文化から環境問題まで多岐にわたる議論を交わしたことも深く心に刻まれています。日本の反対側で真剣に未来を考える人々の姿に、深い感銘を受けました。

二つ目は、帰国時に訪れた最大の試練でした。航空会社のストライキにより便が欠航し、訪問団は3つのグループに分かれて帰国することになったのです。さらに連日の疲れから体調不良者が続出し（帰国後、8人中5人がインフルエンザと判明しました）、私を含むフランス経由組、計4名は、40度の高熱を出した仲間1人が添乗員の方と現地に残る事態となりました。私は、初めての海外で39度の熱を出したもう1人の仲間を連れ、2人だけで日本へ帰らなければならない状況に立たされました。母語の通じない場所で、友人を守り無事に帰国させなければという強い使命感に突き動かされ、拙い英語で必死に状況を切り抜けながら、なんとか無事に岡山まで帰ってきました。この時、私の中にはどんな状況でもなんとかできるという本物の自信が生まれていました。

教室の机の上では学べない「生きる力」を肌で感じたという経験は、今後の人生における大きな支えになるはずです。学生の皆さんも、この先困難なトラブルに直面することがあるでしょう。しかし、それ乗り越えた先には、必ず一回り大きくなった新しい自分が待っています。もし選択に迷うことがあれば、怖がらずに一步を踏み出してみてください。その一步が、あなただけの物語にいい変化を与えることでしょう。



ロボット技術研究部の2025

総合理工学科 電気電子システム 3年 柿元 遥輝

ロボット技術研究部は今年度10月に、NHK様主催の「全国高等専門学校ロボットコンテスト2025 (GreatHighGate)」に出場しました。今年度のテーマは、5つのボックスを積み上げてゲートを作り、人が乗る台車とロボットがその中を通過して得点を競うというものです。本校からはA・Bの2チームが参加しました。Aチーム「カブトガニ・ウォーズ」は展開機構と強力な挟み込み機構を活かし、高さのあるゲート構築に挑戦しました。Bチーム「龍門飛躍 (りゅうもんひやく)」は、コンパクトで洗練された機構によって素早くゲートを作り、周回して得点を重ねる戦略をとりました。惜しくも全国大会進出はなりませんでした。Aチームは東京エレクトロン様より特別賞を、Bチームは三賞(アイデア賞、技術賞、デザイン賞)の一つである「技術賞」を受賞しました。技術賞を受賞するのは、2006年度「ふるさと自慢特急便」以来、約20年ぶりとなる快挙です！この結果に至るまで、各チームが努力を重ねました。Aチームは課題解決のため、大会2ヶ月前に大幅な機構改良を決断し、厳しい状況の中でも全員で協力して大会に間に合わせました。Bチームは昨年度に行った他高専との交流会で得た刺激をきっかけに意欲を高め、今までにない機構を実現し、見事技術賞を獲得しました。今年度はさらに、新しい取り組みとして「第15回キャチロボバトル コンテスト〜Catchthe プチアソート！〜」(通称キャチロボ)にも出場しました。チームは全員が初参加で、右も左も分からない状態からのスタートでした。時間的・技術的に厳しい製作を乗り越え、当初は3点しか取れなかったロボットが、練習を重ねる中で30点を取れるまで成長しました。9月20日の予選第一試合で



は25点を挙げて勝利し、総合20位と本戦に迫る結果となりました。しかし翌日の予選第二試合では直前のトラブルにより13点にとどまり、最終順位は23位で予選敗退となりました。悔しさは残りましたが、学生たちは「来年こそ本戦へ」と意気込んでいます。大会後は出場した大学や企業との交流を通して多くを学びました。また、京都製作所の工場見学では最先端の技術に触れ、ものづくりへの意欲がさらに高まりました。さらに、スタッフの方から温かい激励の言葉もいただき、学生たちにとって大きな励みとなりました。



今後は、津山ロボコンへの出場、春頃には他高専との交流会も計画しており、来年に向けて部全体としてさらなる技術向上を目指しています。今年は津山高専ロボット技術研究部にとって、まさに「飛躍」の年となりました。来年度はさらに活躍できるよう努力していきますので、今後とも津山高専ロボット技術研究部をどうぞよろしくお願いします。



内燃機関部

本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2025 第44回 全国大会

総合理工学科 機械システム系 5年 山口 晴 生・松 田 拓 弥
総合理工学科 電気電子システム系 5年 西 川 彰 人
顧問 山口 大 造・佐 伯 文 浩

内燃機関部10名は、2025年10月11日（土）と12日（日）に開催された本田宗一郎杯 Hondaエコマイレージチャレンジ2025第44回全国大会に出場しました。エコランとは、1リットルのガソリンで何km走行できるかを競う大会です。規定時間内で規定数コースを周回し、燃料消費量から燃費を算出します。内燃機関部では「学生一人ひとりが役割を持ち、それぞれが車両開発や競技大会で責任を果たし成果を残していく常勝軍団」を合言葉に、チームを作り上げてきました。限られた活動予算と時間の中で、いかに効率よく活動するかを考えて行動し大会に挑みました。降雨のため、電気系統にトラブルが発生し、最終的にリタイアという結果になりましたが、①独自に設計開発した高圧縮比ロングストローク化新エンジンと、②希薄燃焼を実現する燃料噴射制御システム、③競技用車両の現在地をピットからリアルタイムで車両の位置を確認できるとともに、走行ラインや燃料噴射量などのログを記録できるRaspberry Piを利用したGPSシステムを搭載した車両を作り上げられたことを誇りに思います。

内燃機関部の車両はこれまで、本田宗一郎杯Honda エコマイレージチャレンジ2019第39回全国大会において、748.181 km/Lの燃費を達成しています。また、Honda エコマイレージチャレンジ2023第36回鈴鹿大会（グループⅢ）において、16チーム中第3位（燃費：295.959km/L）という快挙を達成しています。2025年度でチーム結成9年目です。毎年世代交代があり、技術と知識の継承が課題です。新体制になってもものづくりに向かい合う真摯な姿勢と合言葉を引き続き、さらなる燃費向上を目指して車両開発に挑みます。

最後になりましたが、エコラン全国大会に参加できたのは、部活動に専念できる環境を整備いただき、部活動を支えてくださっている顧問の先生方をはじめ教職員の皆様、後援会の皆様、さらには株式会社MGH様をはじめとするスポンサー様のおかげです。このような恵まれた環境で好きな車作りができることに心から感謝しています。2017年度より、部活動においても高度な技術水準で、車両の開発・データの収集・改良・知見の公開を実施できるよう、教職員が学生の高度なものづくりおよび研究開発活動を支援するプロジェクトを開始しています。本気のものづくりを通じて、学生の自主性と創造性を涵養し、学外のエンジニア教育を通じて総合能力を育むことを大きな目標としています。引き続き、内燃機関部へのご声援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



システム研究部

総理工学科 情報システム系 3年 入江 亮 介

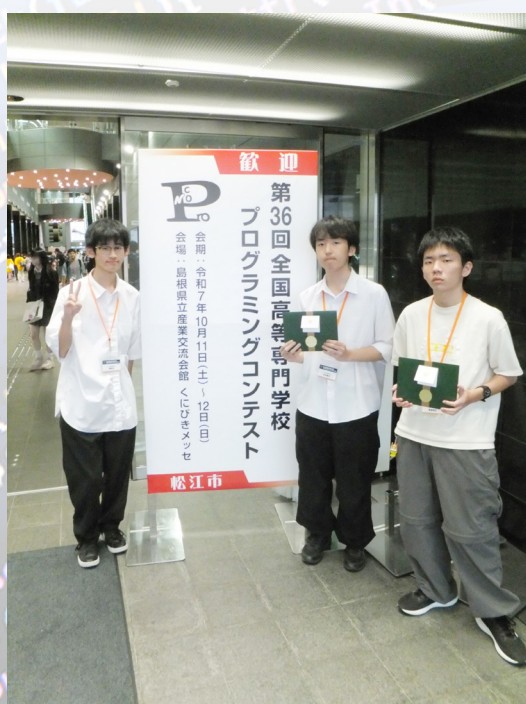
システム研究部の主な活動として、以下のようなものが挙げられます。

高専プロコン 毎年全国の高専生が、課せられる課題に対しユニークなアプローチで解決法を提示するという大会です。2025年度は「水都で創る、未来のイノベーション」をテーマに冠し、課題部門、自由部門、競技部門に分かれてアイデアや技術を競いました。システム研究部は競技部門で本選出場を果たしました。

パソコン甲子園 毎年夏にオンライン上で予選が行われるプログラミングの大会です。1年生で学ぶC言語の能力が備わっていればだれでも参加できる大会で、システム研究部からも毎年部員のほとんどが参加しています。ペアを組んで挑戦し、2人で解いた問題数の合計でランキングが出ます。アルゴリズムに対する深い理解が正解への鍵となるため、毎年思わぬ人材が発見されることもあります。

JOI・JOIG こちらもパソコン甲子園同様にプログラミングの大会です。パソコン甲子園に比べ、個人での参加である点や、予選を3回まで受けられる点が異なります。予選実施回数が多いことにより、本選出場などの実績を残すチャンスが多くあります。

弥生祭 部員から提出された、来場者の心をつかむ斬新で面白いアイデアの作品の数々は、注目の文化展示の一つです。ゲームやメディア、VRなど様々な作品が展示されており、その多様さにシステム研究部の自由度、部員の創造力の高さが現れています。



中国地区高専コンピュータフェスティバル 年度末に中国地方の高専が集まり、各校の技術者による作品展示が行われる、高専の校外交流の場です。普段はなかなか関わりのない他高専の作品が見られる貴重な機会であるため、展示物にも気合が入ります。自分とやっていることが似ている人や高い技術力を持つ方との交流も醍醐味です。

また、イベントだけでなく普段の活動にも力を入れています。部員それぞれのやりたいことが実現できるよう、システム研究部では様々なツールを所有しています。高性能デスクトップPC、MacBook、VR機材、ペンタブなどがあり、「コンピュータを使って色々作る」が叶えられる環境です。hackathonという後輩育成のイベントも定期的に開かれています。それぞれのやりたいことの技術的サポートから、やりたいことを見つける場としてまで、部員それぞれの活動が充実したものになるよう取り組んでいます。

数学クラブがひらく新しい数学のかたち

総合理工学科 先進科学系 5年

長谷川 隼 平

数学クラブは、「数学にまつわることなら何でもやってみよう」をモットーに、自由な発想で活動しているクラブです。枠にとらわれず、純粋に「おもしろい」と感じたテーマを見つけ、研究や制作に取り組むのが私たちのスタイルです。数学にこだわらず、実際に手を動かし、数学的な発想を形にしていくことを大切にしています。

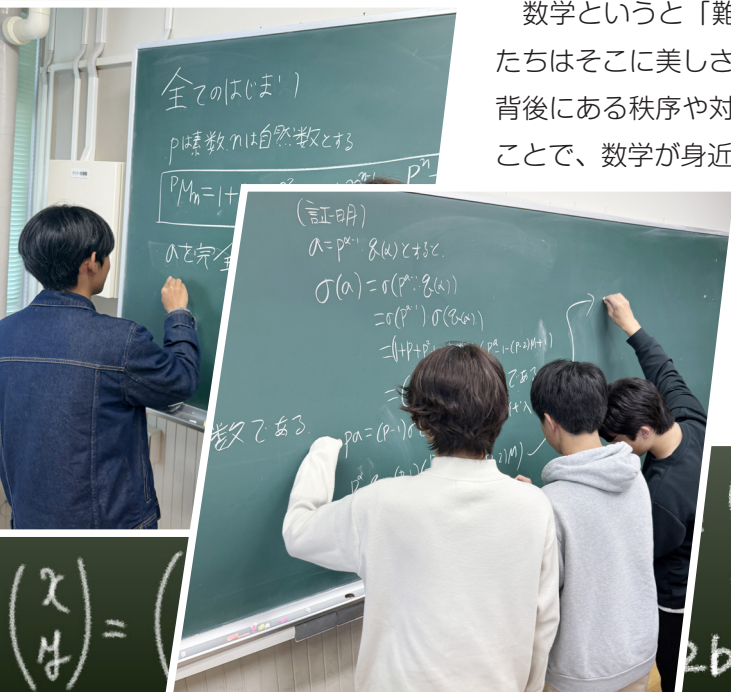
最近では、法 m のウエイト付きパスカル三角形に注目し、その数の並びが生み出す模様やクラスターの規則性を調べています。数列の中に現れる幾何学的なパターンや周期性を見つけ出す過程は、まるで数の中に隠された美を発掘するようです。数式の中から形の美しさが浮かび上がる瞬間は、まさに数学の醍醐味といえるでしょう。

そのほかにも、 n 次パスカル三角形の階差定数に関する理論的な研究や、ルービックキューブを自動で完成させるレゴロボットの制作、さらにはレゴブロックを使って津山城を再現するプロジェクトなど、多彩な活動を展開しています。数学的な思考を基盤にしながらも、プログラミング、設計、造形、電子工作など、さまざまな分野に挑戦できるのが数学クラブの大きな魅力です。数理的な発想がどのように形や動きに結びつくかを、自分たちの手で確かめる喜びがあります。

活動は主に松田研究室や数学実験室で行われています。放課後になると、それぞれのチームが思い思いのテーマに取り組み、和やかな雰囲気の中にも真剣な空気が漂います。時には数学の定理をめぐる議論が白熱し、ホワイトボードいっぱいに数式が並ぶこともあれば、模型づくりやプログラムの調整に没頭することもあります。部員同士が互いの興味を尊重し合い、協力しながら一つの目標を形にしていく姿勢は、まさに自由研究の理想形といえるでしょう。

数学というと「難しそう」「抽象的」といった印象を持たれがちですが、私たちはそこに美しさや面白さを見いだす感性を大切にしています。数や図形の背後にある秩序や対称性、あるいは偶然のように見える中に潜む規則性を探ることで、数学が身近なものとして感じられるようになります。

今後も数学クラブは、理論と創造の両面から数学の世界を探究し、見つけた魅力を発表や作品づくりを通して多くの人に伝えていきたいと考えています。自由な発想と探究心を武器に、私たちはこれからも「数学を楽しむ」活動を続けていきます。



$$\int f\left(\frac{2x}{1+x^2}, \frac{1-x^2}{1+x^2}\right) \cdot \frac{2}{1+x^2} dx$$

$$\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx = \sqrt{\pi}$$

$$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$$

$$2bc \cdot \cos A$$

将棋部 あと1歩

総合理工学科 情報システム系 3年

難 波 隆 成

年に一度の高専大会が熊本でありました。例年通りかなりの数の参加者があり、大会参加者だけでも

200人以上が熊本高専に集まりました。将棋の高専大会では団体戦と個人戦があります。

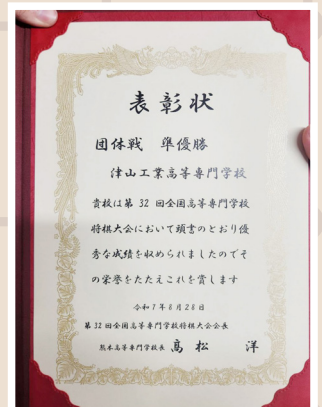
団体戦は3人1組で戦っており、各校の精鋭たちによる熱い戦いが繰り広げられました。本校では昨年の結果から、団体戦は2チームの出場枠が与えられており、実力トップ3人の団体Aチームと次世代の将棋部を担う2年生組のBチームでトロフィーを狙いました。団体戦予選ではAチームはしっかりと通過、Bチームは結果としては予選敗退となりましたが、まだ将棋を始めてから1年程度の練習期間にもかかわらず、他校の精鋭たちに劣らずしっかりとチームとして1勝をつかみ取ってくれました。その後、Aチームは準決勝で沖縄高専を相手に3人全勝で決勝に進出。昨年の団体戦決勝の相手でもある、長野高専と対戦が決定しました。しかし、1勝2敗と惜しくも敗れてしまい、雪辱は果たせない結果となりました。来年こそは優勝トロフィーを持ち帰りたいと思います。

個人戦ではほとんどの選手が予選を通過し、トーナメントに参加しました。今年の個人戦は例年よりもちろん強い人が多く、平均が初段程度という一般的なアマチュア大会にも劣らない程度の実力者揃いでした。そんな中でも今年も土山君が安定して勝利を重ね、準優勝に輝きました。ベスト8からは高段者クラスの実力者もいるような中で、安定して活躍できる土山君のバランス力が光った勝利であり、素晴らしい成果を持ち帰ってくれました。また、個人戦の合間には指導対局がありました。今年で卒業となる村地君がプロ棋士の先生相手に平手で勝利を収める（もちろん指導なので手は緩めてくれますが）ということがあり、卒業前

のとても嬉しい思い出になったように感じます。

個人戦も団体戦も優勝にはあと1歩が届きませんでしたが、これからも日々研鑽を重ねて、トロ

フィーの重さを感じられるように頑張っていきたいと思います。



クラゲ型ロボットによる渦構造

専攻科 機械・制御システム工学専攻 2年 MANAKISIRISUTHI POON

総合理工学科 機械システム系 5年 美 甘 見 真

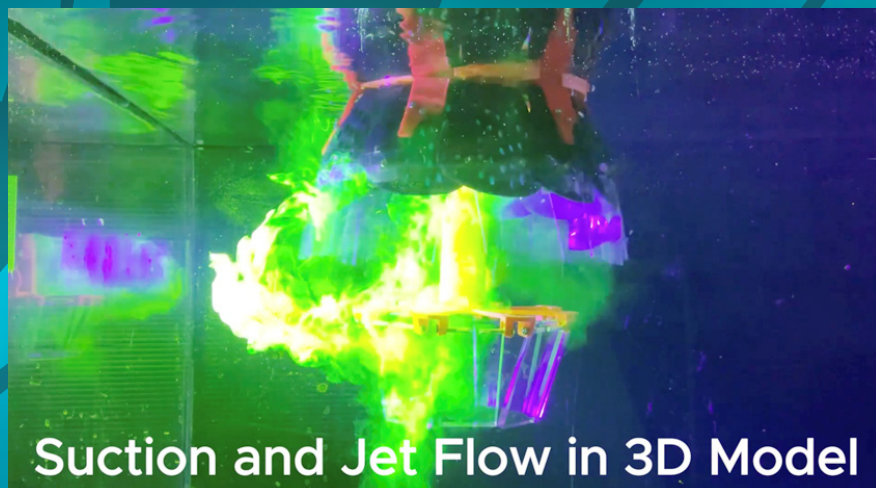
このたび、可視化情報学会が主催する「The 2nd Japan Visualization Symposium」のアートコンテストに参加しました。このコンテストは、「可視化」をキーワードとして、芸術、科学、工学、エンターテインメントなど多様な分野の作品が集うイベントで、応募作品はCG、映像、絵画など、自由な形態で表現できます。5Mの美甘くんとともに、現在特別研究で取り組んでいる“水中ごみを回収するクラゲ型ロボット”がつくり出す渦構造を蛍光染料で可視化し、細谷教授のご指導のもとで「クラゲ型ロボットによる渦構造」というタイトルの動画作品を制作して応募しました。その結果、大賞を受賞することができ、大変光栄に感じています。



近年、湖沼や沿岸域におけるごみ問題が国内外で深刻化しており、特に濁りの原因となる懸濁態物質や微細なプラスチック片など、回収が難しいごみに注目が集まっています。しかし、これらを吸引ポンプで回収する際、インペラ部の閉塞や巻き込みの発生により、装置の長期的な運用が難しいという課題があります。そこで本研究では、根口クラゲ目に属するクラゲが行う傘の開閉動作によるバルブレスポンプのような吸引機能と、口腕(足)による微細生物の捕集機能に着目し、ロバスト性に富んだ水中ごみ回収装置の開発に挑戦しています。クラゲが生み出す渦構造は、複雑さと美しさを併せ持つ自然現象であり、「可視化」を掲げたアートコンテストに最適だと考えて応募しました。

コンテスト当日は、設計したクラゲ型ロボットを展示しながら参加者の方々に研究概要を説明し、専門分野が異なる方にも理解いただけるよう心がけました。「どれくらいごみが回収できたの?」や「なぜクラゲを模倣したの?」など、多くのご質問やご意見をいただき、非常に有意義な研究ディスカッションを行うこ

うことができました。今回のコンテストで得られた経験と知見を活かし、今後もクラゲ型ロボットの研究をさらに発展させていきたいと考えています。



Suction and Jet Flow in 3D Model

年間スポーツ大会の取組と成果

総合理工学科 先進科学系 4年 谷 野 仁 美

本年度、私は春季と秋季の二つのスポーツ大会で実行委員長を務めました。春季はバレーボール、ソフトボール、ドッジボール、系対抗リレーの4種目を、秋季はサッカー、バスケットボール、女子ソフトバレーボール、系対抗綱引き、部活動対抗リレーの5種目を実施しました。私は「スポーツ大会に参加する学生を増やし、競技に出場する人と運営に関わる人のどちらにとっても心地よい行事にする」という目標を掲げて運営に取り組みました。

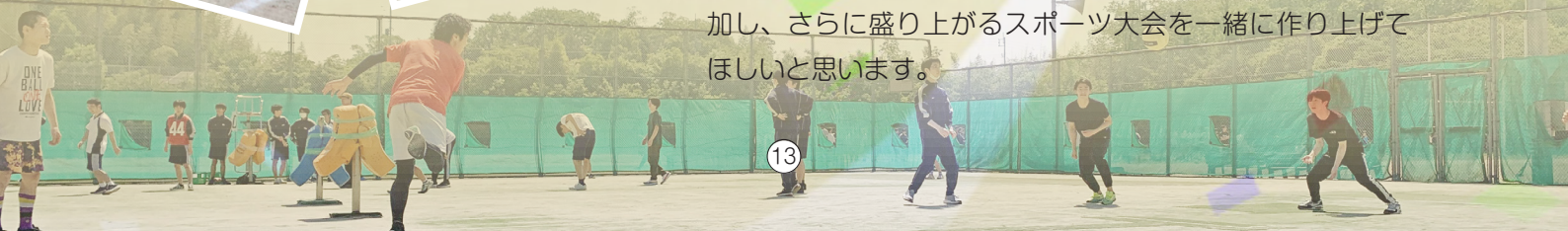
春季大会は、一年生が入学して、二年生以上が進級してから一か月ほどが経つ5月14日に開催しました。新しい環境に慣れ始めた人もいれば、変化に不安やストレスを感じていた人もいたと思います。当日は天候にも恵まれ、外で思い切り体を動かすことで、気分転換やリフレッシュにつながった学生が多かったのではないかと感じています。

秋季大会は、夏休み明けから二週間経った10月8日に開催しました。実施した5種目のうち、女子ソフトバレーボール、系対抗綱引き、部活動対抗リレーの3種目を新競技として導入することができました。これまでのスポーツ大会では、元気な男子が中心になりやすく、女子は応援に回る場面も多かったのですが、女子ソフトバレーボールでは女子が主役となり活躍する姿が見られました。まだ改善すべき点はありますが、今年度は女子が楽しめる競技として良いスタートが切れたと感じています。

また、タイ高専の学生のみなさんが津山高専に研修に来られていたため、秋季大会のバスケットボールと系対抗綱引きに参加していただきました。特に綱引きでは、タイ高専チーム vs 専攻科生という特別な対戦が実現し、最後は本科の学生たちも応援に加わって、会場全体が大いに盛り上がりました。

振り返ってみると、本年度は当初掲げた「参加者を増やし、出場者と運営者の双方にとって心地よい行事にする」という目標に一歩近づけたように思います。また、行事を成功させるうえで「準備段階から多くの人と連携しながら物事を動かすことの大切さ」を強く実感する一年でもありました。大会に協力してくださった各部活動、先生方、そして学生課の皆さまには、心から感謝しています。

次期スポーツ大会実行委員長は、「学生の笑顔と一体感を大切にし、より楽しい大会にしたい」という強い想いをもっています。どうか自信をもって大会づくりに取り組んでください。また、改善を重ねながらより良い大会をつくってくれると期待していますので、学生の皆さんも積極的に参加し、さらに盛り上がるスポーツ大会を一緒に作り上げてほしいと思います。



第61回

弥生祭



総理工学科 機械システム系 4年 佐 故 京 咲

今年の弥生祭は学内外様々な方の助けもあり、模擬店はもちろん文化展示・系展示やイベントなどを成功させることができました！弥生祭実行委員会を代表し、心より感謝申し上げます。

今年の弥生祭は、実行委員会を中心として、新しい試みと斬新な企画に積極的に挑戦しました。準備期間は、前例のない多くの課題に直面し、試行錯誤の連続でした。企画の立案から外部との交渉など、すべてが手探りでしたが、実行委員会のみんなが一丸となって困難を乗り越えるたびに、学生の自主性と団結力は確実に強くなったと実感しています。

今年の弥生祭を振り返るにあたり、特筆すべきは地域社会との新たなつながりを築けた点にあります。長らく途絶えていた地元企業様からのご支援を実現することができました。温かいご支援を、心より感謝申し上げます。地域の皆さまの厚いご協力が、今年の弥生祭の成功に繋がりました。

今年の目玉の一つとして、吉本の芸人さんをお招きし、ライブを開催いたしました。芸人さんのパフォーマンスに学生も来場者の皆さまも最高の盛り上がりを見せ、体育館全体が笑い熱気に包まれました。さらに既存のイベントに加え新しいイベントを開催しました。毎年大人気の定番イベントである「ビンゴ大会」では、今年も大人からお子様まで多くの方にご参加いただき、大いに賑わいました。また、「MukiMuki-1グランプリ」のようなユニークな新イベントは大きな話題を呼びました。さらに、系展示・文化展示・模擬店といった従来の催しにおいても、各団体の工夫を随所に感じることができました。



最後になりますが、ご来場くださったすべての皆さま、そして多大なるご支援を賜りました企業様、さらには学生の活動を支えてくださった教職員の方々、保護者の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。この経験を糧とし、実行委員会一同来年度以降も、皆様に楽しんでいただける弥生祭を作り上げていきたいと思ひます。

学生の皆さん！この大きな催しを一緒に作り上げてくれる弥生祭実行委員に加わって、あなたのアイデアや熱意を注いでみませんか？興味のある方は、周りにいる実行委員に気軽に声をかけてください。ぜひ一緒に頑張りましょう！



寮生活について

総合理工学科 先進科学系 4年 長田 和也

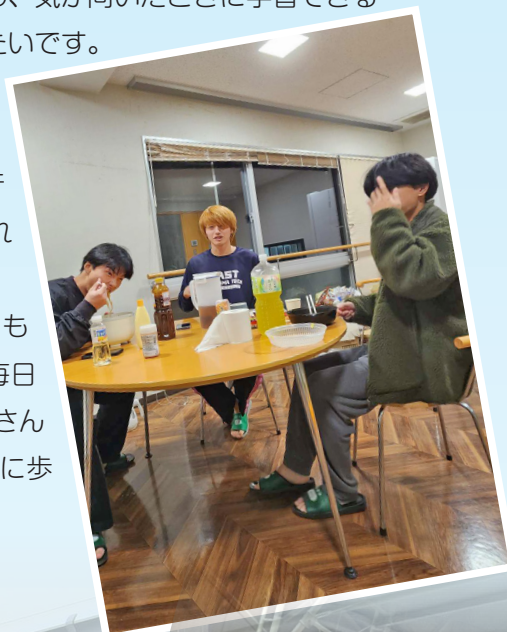
津山工業高等専門学校 of 北辰寮は、ただのアパートではなく、学生が技術者として、人として成長していくための場です。そのため点呼や門限といった決まりがあり、特に1年生のうちは厳しく感じることもあるでしょう。私も1年生の頃はその規則を知らずに入寮したため、最初の1週間はとても苦労しました。しかし、すぐに慣れました。困ったときは、寮母さんをはじめ寮事務の方や先輩など、相談に乗ってくれる人がたくさんいます。安心してください。

私が感じる北辰寮の良いところを紹介します。1つ目は、共同生活であることです。1年生の頃は2人部屋であったり、隣の部屋が友達だったりするので必ず近くに相談できる相手ができ、テスト期間には一緒に勉強したり、お互いに分からないところを教え合ったりできます。テストが終われば映画を見たり、ゲームをしたり、カラオケや買い物に出かけたりと、気軽に友達と過ごせるのがいいですね。

2つ目は、学校のすぐ隣に寮があることです。通学時間がほとんどかからないので、その分を勉強や休憩に使えます。図書館にもすぐ行けるため、気が向いたときに学習できるのも便利です。怠けがちな私には、これは本当にありがたいです。

3つ目は、寮独自のイベントがあることです。寮生スポーツ大会や晩祭、焼肉パーティーなど、自然と友達ができ仲を深められる機会が多くあります。こうした行事が日々の楽しみになり、寮生活にメリハリを与えてくれました。たくさんの思い出ができる、とても大切な時間です。

寮生活は決して楽なことばかりではありませんが、それ以上に得られるものが確かにあります。新しい環境に踏み出す勇気さえあれば、北辰寮での毎日は、自分自身を大きく成長させる貴重な時間になるはずです。中学生の皆さんが不安を感じているとしても、この寮にはしっかりとした支援体制と、共に歩む仲間がいます。ぜひ入寮を検討してみてください。



第61回 中国地区高等専門学校体育大会

第61回中国地区高等専門学校体育大会が行われました。

成績は下記のとおりです。※3位以上の成績のみ（赤字は全国大会出場）

<夏季>

期 間：令和7年7月4日（金）～6日（日）

硬式野球競技：令和7年6月28日（土）～29日（日）

ソフトテニス競技：令和7年6月28日（土）～29日（日）

<冬季>令和7年11月15日（土）～16日（日）※ラグビー競技のみ

主 管 校：米子工業高等専門学校

夏季大会

■陸上競技 7月4日（金）～5日（土）

男子

200m	優 勝	横内倅大（先進科学4年）
400m	優 勝	横内倅大（先進科学4年）
4x100mR	第2位	須田悠紀（先進科学3年） 細井琥右（1年） 美甘見真（機械5年）
4x400mR	第2位	横内倅大（先進科学4年） 須田悠紀（先進科学3年） 美甘見真（機械5年） 平田開都（機械2年） 横内倅大（先進科学4年）
やり投	第3位	須田悠紀（先進科学3年）

■柔道競技 7月4日（金）～5日（土）

男子

団体	第3位	
団体（3人制）	優 勝	
個人73kg級	第2位	藤井快成（先進科学4年）

女子

個人52kg級	第2位	今村楓花（1年）
個人57kg級	優 勝	根本菜羽（電気電子3年）

■剣道競技 7月5日（土）～6日（日）

男子

個人戦	優 勝	岡部侑人（機械5年）
-----	-----	------------

■水泳競技 7月5日（土）

女子

100m平泳ぎ	第3位	岡田果奈（機械4年）
---------	-----	------------

■テニス競技 6月28日（土）～29日（日）

男子

シングルス	第3位	福島一伸（先進科学3年）
-------	-----	--------------

冬季大会

■ラグビー競技 11月15日（土）～16日（日）

Aパート	第1位	
		（中四国地区第1代表として全国大会出場）

第60回 全国高等専門学校体育大会

期 間：＜夏季＞競技ごとに異なる

＜冬季＞令和8年1月4日(日)～9日(金) ※ラグビー競技のみ

担当校：＜夏季＞九州沖縄地区高専

＜冬季＞神戸市立工業高等専門学校

中国地区大会を勝ち抜いた陸上競技部、柔道部、剣道部、ラグビーフットボール部が参加しました。成績は以下のとおりです。※3位以上の成績のみ

夏季大会

陸上競技

●期 間：8月29日(金)～30日(土)

●会 場：大分スポーツ公園クラサードーム大分

男子 200m 3位 横内 倖 大 (先進科学4年)
400m 優勝 横内 倖 大 (先進科学4年)

柔道競技

●期 間：8月30日(土)～31日(日)

●会 場：第一警備スポーツセンター戸畑

女子 個人57kg級 準優勝 根本 菜 羽 (電気電子3年)

冬季大会

ラグビーフットボール競技

●期 間：1月4日(日)～9日(金)

●会 場：神戸総合運動公園
ユニバー記念競技場

第3位



卒業生表彰者一覧

本科

賞名	先進科学系	機械システム系	電気電子システム系	情報システム系
優秀賞	荒川 由羽	チュー	ブーム	出雲井 理輝
箕作賞	角南 達郎	花房 茉侑	竹田 陸人	大澤 凜太郎
日本化学会中国四国支部 支部長賞	中桐 伶			
畠山賞		則本 馳天		
電気・情報関連学会中国支部賞			直原 崇太郎	清水 春陽

専攻科

賞名	機械・制御システム工学専攻	電子・情報システム工学専攻
箕作賞	岡本 淳志	定岡 廉

本科・専攻科

賞名	先進科学系	機械システム系	電気電子システム系	情報システム系	専攻科
弥生会賞	長谷川 隼平 宮路 伶音	岡部 侑人 美甘 見真	木下 真樹	タナー	【機械・制御システム工学専攻】 ブン 【電子・情報システム工学専攻】 山下 諄



令和7年度 就職・進学状況

令和8年1月31日現在

	先科 学	進 系	機 械 シ ス テ ム	電 気 電 子 シ ス テ ム	情 報 シ ス テ ム	本 科 ・ 計	機 械 ・ 制 御 シ ス テ ム 工 学 専 攻	電 子 ・ 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	専 攻 科 ・ 計	合 計
学 生 数	38		38	38	49	163	6	12	18	181
就 職										
希望者数	19		29	30	30	108	5	12	17	125
内定者数	19		29	30	30	108	5	12	17	125
進 学										
希望者数	19		8	7	17	51	1	0	1	52
入学予定者数	18		8	7	17	50	1	0	1	51
そ の 他	0		1	1	2	4	0	0	0	4

主な就職内定先

旭化成株式会社、三菱ケミカル株式会社、一般社団法人日本血液製剤機構、花王株式会社、株式会社岡山村田製作所、サントリーホールディングス株式会社、森永乳業株式会社、ENEOS株式会社、ダイキン工業株式会社、コベルコ建機株式会社、東和薬品株式会社、JFEエンジニアリング株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、富士フイルム株式会社、中国電力ネットワーク株式会社、株式会社クラレ、東芝ITサービス株式会社、NECフィールディング株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、西日本旅客鉄道株式会社

主な進学予定先

豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、北見工業大学、筑波大学、多摩美術大学、京都工芸繊維大学、大阪国際工科専門職大学、三重大学、岡山大学、島根大学、広島大学、香川大学、高知大学、大分大学、玉野総合医療専門学校、津山高専専攻科



新任教員紹介

校長 佐藤 貴哉



2025年4月に津山工業高等専門学校長に就任いたしました。

直前は沖縄高専校長を3年間務めましたが、企業での19年の開発経験、鶴岡高専教授、国立高専機構での勤務を経て、この津山高専に着任いたしました。

専門は高分子化学で、二次電池（リチウムポリマー電池、電気二重層キャパシタ）、化粧品材料、生体適合材料など、物質工学の分野で開発経験があります。

私は企業時代、同僚として働いた高専卒業生の「技術者としてのポテンシャルの高さ」に深く感動し、自ら高専教育と研究に携わることを志しました。

津山高専生の皆さんには、地域と世界の課題に対し、単に知識を学ぶだけでなく、自ら手を動かし解決する「実践的技術リーダー」を目指してほしいと願っています。産業界の知見と高専教育の強みを融合させ、皆さんの学びを全力でサポートします。どうぞよろしくお願いいたします。

総合理工学科 機械システム系 准教授 ランボー 典子



こんにちは。2025年4月に総合理工学科 機械システム系に着任しました、ランボー典子です。生まれも育ちも九州ですが、20代はアメリカ（ワシントン州・カリフォルニア州）や大阪、東京など、さまざまな場所で暮らしました。気づけば、今では津山が人生で最も長く暮らしている土地になりました。私がこれまでの人生で「やって良かったこと」を一つ挙げるとすれば、若いころに海外へ出たことです。英語を身に付けられただけでなく、視野が広がり、物事の考え方も大きく変わりました。大変なことや涙することも

ありましたが、今振り返るとこの経験こそが私の大きな財産です。津山高専には、海外へ行けるプログラムがたくさんあります。ぜひ皆さんにも、チャンスがあれば積極的に挑戦してほしいと思います。「海外はちょっと…」という人も大丈夫。津山高専には多くの留学生が来ています。日本にいながら国際交流を経験することもできます。外国の人と交流したり、外国語を学んだりすることで、皆さんの世界や可能性は大きく広がります。外国語学習は決して短く簡単な道ではありませんが、続ければ必ず力になります。英語学習について質問があれば、ぜひ気軽に研究室へ来てください。皆さんの挑戦を応援しています。

総合理工学科 機械システム系 助教 藤本 真也



赴任のご挨拶と、母校への思い

はじめまして。兵庫県加東市（旧・社町）出身の藤本真也（ふじもとしんや）と申します。

この3月まで㈱アライドマテリアルに在籍しており、主に外観検査自動機の開発と導入を担当していました。私は津山高専の電子制御工学科を2013年に卒業し、長岡技術科学大学を卒業しました。現在は博士号取得に向け、日々勉強しています。

専門は、ロボット工学（メカトロニクス）です。電子制御工学科で幅広い分野を学ぶことができたため、流体力学および金属材料の加工（摩擦攪拌接合）で修士論文を執筆できました。簡単にロボットといっても、その構成要素は電気・情報分野を含みますので、ロボットに関する研究は複数の分野を横断して考える必要があると認識しています。

趣味は、ロボコンです。津山高専への主な進学理由が高専ロボコンに出場したいという思いでしたので、母校で働けることになり大変うれしく、また恐縮に思います。赴任後はロボット技術研究部と硬式野球部の副顧問に任命いただき、学生の成長を見る日々が本当に楽しく感じています。教員として初めてのことばかりですが、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

新任教員紹介



総合理工学科 電気電子システム系 助教 沼 千 智

昨年の春から着任しました沼千智です。私は津山高専の出身で、工学だけでなく理学や文学にも触れられる環境に助けられ、興味のあるものにどんどん食いついて吸収する楽しさを知りました。みなさんも「面白そう」と感じること・ものを見つけて広げてみてください。研究は環境DNA (eDNA) と統計データ分析を軸に、昆虫や水域・土壌の生物多様性をデータとして捉え、温度・水分・pHなどを測定するセンサと統合して変動の因果や予測を探っています。環境と生物群集の状態を中長期的に観測して「いま何が起き、次に何が起きそうか」を見える化し、現場で役立つ知見につなげるのが目標です。授業・卒研など、気軽に声をかけてください。電気・情報の強みを生かして、生物や環境とつなぐ研究を一緒にやってみませんか。



総合理工学科 特命准教授（海外展開推進）伊 藤 公 毅

「豆電球はつぶれ数学の灯がともる」

自己紹介的な文章は、ここに赴任した春に方々に書いている。私が如何にして、この津山の地に漂着したかについては、既にあちこちで書いたから、別をみて貰うことにして、ここでは、ちょっと昔話を。

小さい頃は機械いじりが好きであった。小学校1年の頃だったと思うが、豆電球に電池を繋いで光らせては喜んでた。しかし、次第に物足らなくなるものである。1.5ボルトでは、明るくはない。電池を2個にして3ボルトとしたところで、大したことはない。電圧をあげれば明るくなる、ということは理解していたのだが、電池を直列に繋ぐのでは埒が明かない。一方で、家に来ている電気のコンセントは100ボルトではないか。小学校1年生の浅知恵では、豆電球を100ボルトに繋いでしまえ、ということになる。やってみた。豆電球は爆発した。

というわけだから、元々は電子工学とか、そういう方向の興味が強かったのだが、それを契機に物理への興味が強まっていく。で、大学は理学部に入れてもらえたので、物理をやるつもりでいた。が、物理実験レポートというものが難物で、単位を落としてしまい、数学をやることになってしまった。以来、数学との（腐れ）縁は続くのである。



総合理工学科 特命教授（高度情報専門人材育成事業推進室）中 川 貴 司

2025年12月からお世話になっている中川です。本校に着任する以前は国内外の大学・研究所で教育・研究に関わってきました。

そこで、取り組んでいたことは、一言でいうと過去から現在に至る地球・惑星進化のプロセスの解明になります。それは、「地球ダイナミクス」というキーワードのもとに、数学・物理・化学・計算科学を駆使した俗世間にはよくわかってもらえない世界です。

なぜ、このような転身をしたのかといいますと、ふとしたきっかけで、唐突に次代を担う人材育成の活動に関わりたと思うようになっていたからです。研究の世界も横目に見つつ、未来の科学技術を担う高専生にこれまでの経験・知見を伝えてみたいと考えております。学生の皆様とは授業等でお会いできることを楽しみにしています。今後ともよろしくお願いします。

退任の先生のご挨拶



総合理工学科 機械システム系 教授 野村 健 作

私が津山高専に着任したのは、昭和の最後の年度でした。在職中に2つの改元を経験しましたが、そんなに時間が経過したことの实感が湧いてきません。これまで多くの学生さんに接してまいりましたが、すべての学生さんの顔は新しい記憶のまま残っています。しかし、稀に研究室へやってきてくれる卒業生の名前が思い出せず名刺をいただくまで思い出せないふりをするようになりました。誠に申し訳ないことですが、やはり加齢による語健忘のようです。一方、私と同年の高専は、学生さんがそうであるように新たな科学技術を取り込み続ける純粋で美しい器のままです。今後も発展することをお祈りするとともに、これまで無用の私を受け入れ続けていただいた津山高専にお礼を申し上げます。



総合理工学科 電気電子システム系 教授 中 村 重 之
お世話になりました。

津山高専に赴任して38年が経とうとしています。その間、多くの人に助けられてきました。津山高専の教職員の皆さんはもちろん、他高専の先生方、学会や学位でお世話になった大学の先生、電気工学科、電気電子工学科そして総合理工学科の学生諸君など枚挙にいとまがありません。その中でも今でも交流が続いている長岡高専や都城高専、木更津高専、和歌山高専の先生方、学位でお世話になった名古屋工業大学の先生、豊橋と長岡の両技科大の先生方などには特にお世話になりました。学生では、何と言っても夢工房の諸君にはソーラーカーレースで大変お世話になりました。3日間のレースに秋田県大潟村に行ったり、鈴鹿サーキットで走れる車をアルミ溶接で作ってくれたりと八面六臂の大活躍をしてくれました。この場を借りて御礼申し上げます。



総合理工学科 情報システム系 教授 藪 木 登
津山高専での39年間を振り返って

この3月をもって退職いたします。
1987年4月、津山高専へ着任し、情報工学科2期生と共に歩み始めました。助手として学生実験を担当し、その後、高専は専攻科設置や学科改組、地域連携など大きく変化しました。研究は、画像処理分野へ転換し、モーション解析や自動走行、福祉支援システム、近年はAIを活用した交通量計測などを学生と共に進め、国内外の学会で発表も行いました。ハンドボール部、硬式野球部顧問、国際交流、海外研修支援など多くの活動に携わり、学生の成長を間近で見れたことは大きな喜びです。

学生の皆さんには、人とのつながりを大切に、挑戦を続けてほしいと願っています。

教職員・学生・関係者の皆様に支えられ、研究・教育・国際交流・部活動など多くの経験を積むことができました。長年のご支援に心より感謝申し上げます。

今後は再雇用制度で2年間、引き続きよろしく願いいたします。

		本 科	専 攻 科
4/1	水	* 春季休業(～2日) * 開寮(10:00)	* 春季休業(～2日)
4/2	木	* 新入寮生荷物搬入(～3日) * 寮生集会(15:00) * 留学生・編入生オリエンテーション(13:30)	
4/3	金	* 入学式 (新入生・編入生・留学生・新入生オリエンテーション) * 保護者懇談会 * 後援会定期総会 * 入寮式(13:30) * 北辰寮後援会定期総会(14:15) * 新入寮生と寮上級生との対面式(19:40)	* 入学式 * 専攻科説明会(保護者向け) * 2年生オリエンテーション (学位申請説明会含む)
4/6	月	* 始業式・オリエンテーション * 1年生課題テスト * 寮生総会、寮生会役員認証式(17:00)	* 新入生オリエンテーション
4/7	火	* 授業開始 * 新入生歓迎会(15:00)	* 授業開始
4/10	金		* 履修願・再履修願提出 締切(17:00)
4/14	火	* 新入寮生防火避難訓練(15:00)	* 専攻科入試説明会
4/16	木		* 特別研究中間報告会(EC)
4/17	金		* 特別研究中間報告会(MS)
4/20	月	* 開校記念日 * 選択科目履修願提出締切(学外実習除く) * 前期実施分校外教育・工場見学・申込締切	* 開校記念日
4/21	火	* 4,5年生単位認定試験受験願提出締切	
4/25	土	* リーダー研修会	
4/29	水	(授業実施日) * 授業参観日	(授業実施日) * 授業参観日
5/2	土	* 閉寮(時間未定) * 特別在寮(～6日)	
5/6	水	* 開寮(時間未定)	
5/7	木		* 推薦入試願書受付期間(～13日)
5/9	土	* 美術総体(～10日)	
5/11	月		* 校外実習・長期インターン シップ説明会
5/12	火	* 学生総会(14:40)	
5/14	木	* スポーツ大会(21日予備日)	
5/16	土	* 寮祭(晩祭)、夕食バイキング	
5/18	月	* 授業公開週間(～22日)	* 授業公開週間(～22日) * 推薦入試
5/21	木	* スポーツ大会(予備日)	* 推薦入試合格発表
5/28	木		* 特別研究テーマ発表会(EC)
5/29	金	* 月曜日の授業	* 月曜日の授業 * 特別研究テーマ発表会(MS) * 学修総まとめ科目履修計画書 校内締切(2年生)
6/1	月	* 本科補講日 * 2～5年生第1回単位認定試験時間割発表	
6/2	火	* 前期中間試験(～8日)	* 学力入試・社会人特別入試 願書受付期間(～5日)

		本 科	専 攻 科
6/6	土	* 県総体(～7日)	
6/8	月	* 資格関連科目指導日①	
6/9	火	* 救急処置実技講習会(15:30) * 北辰寮防火避難訓練(19:40)	
6/15	月		* 学力入試・社会人特別入試
6/18	木	* 1年生校外教育(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 2年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 4年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか)	
6/19	金		* 学力入試・社会人特別入試 合格発表(9:00)
6/22	月	* 2～5年生第1回単位認定試験 (～7月10日)	
6/25	木	* 1年生校外教育(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 2年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 4年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか)	
6/26	金	* 中国地区高専体育大会参加説明会	
7/2	木	* 1年生校外教育(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 2年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 4年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか)	
7/3	金	* 休講 * 中国地区高専体育大会(夏季大会)(～5日)	* 休講
7/7	火	* 寮生レクリエーション大会(～9日)	
7/9	木	* 1年生校外教育(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 2年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか) * 4年生工場見学(6/18, 25, 7/2, 9のいずれか)	
7/21	火	* 月曜日の授業	* 月曜日の授業
7/22	水	* 金曜日の授業	* 金曜日の授業
7/24	金	* 補講日	* 補講日
7/27	月	* 前期末試験(～31日)	* 前期末試験(～31日)
7/31	金	* 資格関連科目指導日② * 寮一斉清掃(16:00) * 入寮説明会(前期・通学生向)(16:30)	
8/8	土	* 夏季休業(～9月23日) * 閉寮(15:00) * 閉寮点検	* 夏季休業(～9月23日)
8/19	水	* 臨時開寮開始(10:00)	
8/21	金	* オープンキャンパス2026(～22日) * オープンキャンパス寮見学(～22日)	
8/23	日	* 臨時開寮終了(10:00)	
9/13	日	* 開寮(10:00)	
9/14	月	* 特別補習期間(～18日)	
9/23	水	* 夏季休業終わり * 寮生部屋替え(後期)	* 夏季休業終わり
9/24	木	* 全校集会・HR(1・2限) * 後期授業開始 * 留学生と語る会(16:30) * 寮生総会(19:40)	* 後期授業開始 * 校外実習報告書提出締切 (含長期インターンシップ報告書)
9/28	月	* 寮生指導者研修会、寮務委員と 寮生会との懇談会(19:40)	
9/29	火	* 寮生レクリエーション大会(～10月1日)	

		本 科	専 攻 科			本 科	専 攻 科
10/1	木		*後期履修届締切(1、2年生)(17:00)	1/12	火		*特別研究報告書一次締切
10/5	月	*タイ高専学生1ヵ月研修受入(～29日)		1/13	水	*推薦入学者選抜試験(本試験) (臨時休業日)	*臨時休業日
10/7	水	*秋季スポーツ大会(21日予備日)		1/14	木	*月曜日の授業	*月曜日の授業
10/8	木		*校外実習・長期インターンシップ報告会(EC)	1/21	木		*特別研究発表会(EC)
10/9	金		*校外実習・長期インターンシップ報告会(MS)	1/22	金		*特別研究発表会(MS)
10/13	火	*授業公開週間(～19日) *寮生教養講座(15:00)	*授業公開週間(～19日)	1/23	土	*全国高専英語コンテスト(～24日)	
10/16	金	*授業参観日	*授業参観日	1/25	月	*補講日	*補講日
10/20	火	*北辰寮防災訓練(地震対応)(19:40)		1/26	火	*後期末試験(～2月1日)	*後期末試験(～2月1日)
10/21	水	*秋季スポーツ大会(予備日)		2/1	月	*寮一斉清掃(15:00) *退寮説明会(15:30)	
10/22	木	*3年生合宿研修(～23日)		2/9	火	*全校集会 *清掃(全学年) *選択科目単位認定願提出締切(1、5年生)(17:00)	
10/24	土	*寮生焼肉パーティー		2/10	水	*特別補習期間(～18日)	
10/29	木	*月曜日の授業	*月曜日の授業	2/12	金		*情報交換会(2年生) *学修総まとめ科目成果の要旨 校内締切(2年生)
10/30	金	*休講(弥生祭準備)	*休講(弥生祭準備)	2/13	土	*学力入試準備	
10/31	土	*弥生祭(～11月1日) *中学生向け進路相談会(～11月1日)		2/14	日	*学力入学者選抜試験(本試験)	
11/1	日	*寮生保護者連絡会 *北辰寮後援会役員会		2/15	月	*臨時休業日	*臨時休業日
11/2	月	*弥生祭片付け(休講)	*弥生祭片付け(休講)	2/16	火		*特別研究報告書締切
11/6	金	*月曜日の授業	*月曜日の授業	2/17	水	*月曜日の授業	*月曜日の授業
11/10	火	*1年生GTEC for STUDENTS試験		2/19	金	*特別教育期間(～3月11日)	
11/14	土	*中国地区高専体育大会(冬季大会) (～15日、21日)		2/21	日	*学力入学者選抜試験(追試験)	
11/17	火	*2年生GTEC for STUDENTS試験		2/26	金	*選択科目単位認定願提出締切(2～4年生)(17:00)	
11/21	土	*全国高専体育大会中国四国地区予選会 (冬季大会)		3/7	日	*寮生会活動報告会(10:00) *北辰寮後援会役員会(11:00) *閉寮(15:00) *閉寮点検	
11/24	火	*補講日(1・2限は9月24日の振替)		3/12	金	*卒業式	*修了式
11/25	水	*後期中間試験(～12月1日)		3/15	月	*学年末休業(～31日)	*学年末休業(～31日)
12/1	火	*寮一斉清掃(15:00) *入寮説明会(後期・現通学生向)(15:00)					
12/3	木	*入寮説明会(19:40)					
12/7	月	*2～5年生第2回単位認定試験(～18日)					
12/22	火	*4年生TOEIC-IP試験					
12/26	土	*冬季休業(～1月4日) *閉寮(15:00) *閉寮点検	*冬季休業(～1月4日)				
1/4	月	*冬季休業終わり *全国高専体育大会(冬季大会)(～9日) *開寮(10:00)	*冬季休業終わり				
1/5	火	*授業開始 *寮生集会(17:00) *寮生レクリエーション大会(～6日)	*授業開始				
1/7	木	*交換寮生報告会					

※予定の変更が生じる可能性があります。
最新の行事予定は本校のホームページ
にてご確認ください。





津山高専だより

National Institute of Technology, Tsuyama College Newsletter

編 集 発 行

津山工業高等専門学校 学生会 ☎(0868)24-8293
〒708-8509 岡山県津山市沼624-1